

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.177

■ 自動車工学関連講座（新人・若手社員向け Web セミナー）
第1回「自動車部品の製造工場における安全教育」（会員限定）

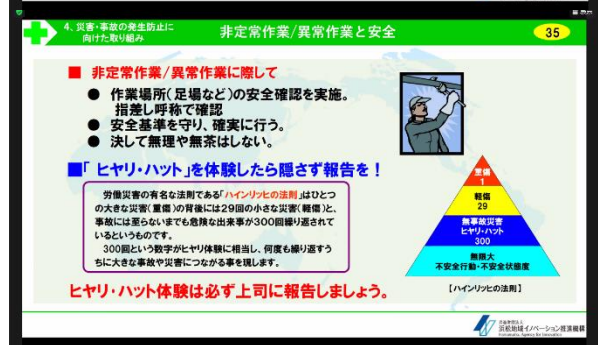
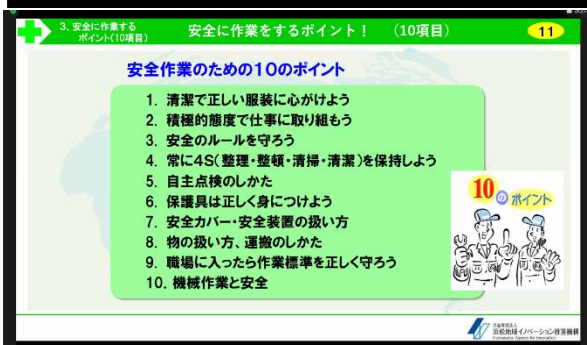
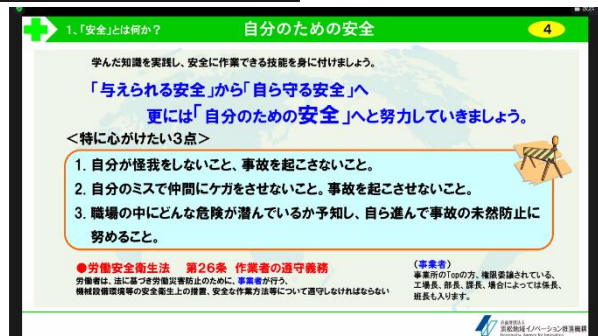
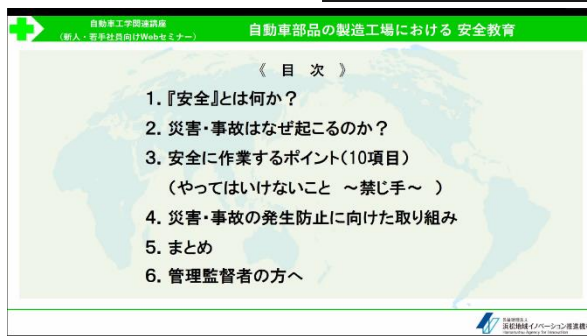
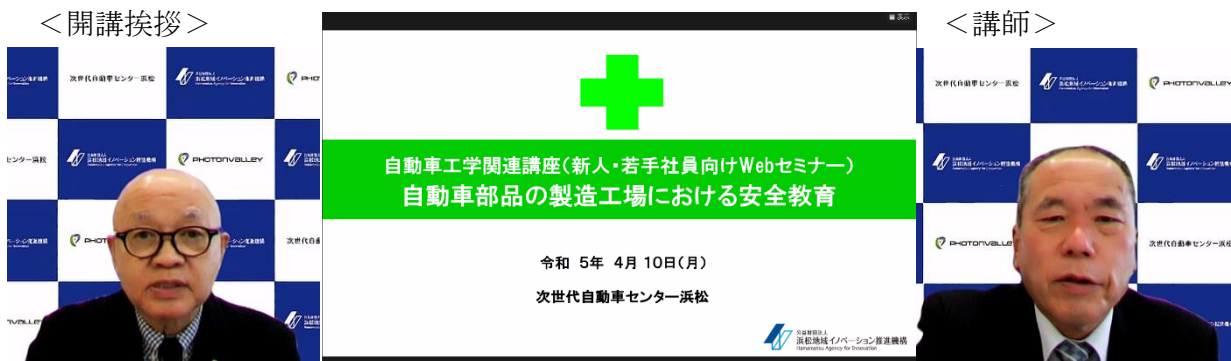
次世代自動車センター浜松では、昨年度に引き続き、会員企業の皆様のアンケートにお応えし、新人・若手社員の十分な教育ができずにお悩みの会員企業の皆様のお役にたてるよう、新人・若手社員の皆様に必要な自動車部品の製造に関する基本的なスキルを身につけて貰うために、「自動車部品の製造工場における安全教育」、「製造現場での5S」、「自動車の構造と製造工程」、「製造現場の品質管理」の4回連続のWebセミナーを企画しました。

今回、その第1回として、日常の生産活動において、企業の礎と言われている「安全」について、工場で働く新入社員や若手社員の皆様にとって最も基本的な事項として理解し身につけていただくため、また、管理監督者の皆様には、法律上からの責務の重さを再認識していただき、今後の安全に対する取り組みに活かしていただくため、当センターの望月センター長の開講の挨拶に続いて、飯田コーディネーターが講師となり、「自動車部品の製造工場における安全教育」の講座を開催しました。

■ 日 時 : 令和5年4月10日(月) 13時30分～15時

■ 場 所 : We b 形式

■ 参加者 : 69社/299名



【参加者の声】

- ・なぜ災害事故が発生するのか、項目ごとの安全に作業するポイント等、今後の安全衛生活動を実施する上でとても参考になった。危険な場所だけではなく使用しているもの、またはその劣化により危険があるのは勉強になった。
- ・今後働いていく上で、自分がケガをしないで自分のミスにより仲間にケガをさせないということが重要であるということがわかった。
- ・災害や事故の要因や、安全に作業を行うためのポイント、様々な危険要因などについて具体的な事例も交えてとても分かりやすかった。また、発生防止の考え方についてもとても参考になった。
- ・作業員として守るべき安全行動の基本・根幹となる部分を学ぶことができた。100%の安全はなく、危険をより遠くにおくために、どう考えどう行動するか考えさせられた。
- ・新人・若手向けでありながら、社内で守られていない事例もあり、自社の安全教育への取り組みの薄さに気づける機会でもあった。現場で作業標準に基づいた作業教育は大切であるが、その前に今回の様な安全の考え方を教育することも労災を発生させないための方法だと感じた。
- ・労災は、初心者や非定常作業に限定されるものではなく、どんな作業にも発生する可能性がある。慣れた作業にも危険があるという意識を忘れずに、職場内での不安全作業には勇気を持って声掛けをし、常に安心・安全作業となる様5Sなどの改善も進めて行きたい。
- ・これまでの自分自身の行動に危険が潜んでいたことを確認することができた。今までは幸いにも怪我や事故にはつながらなかったが、今後は安全第一を最優先に効率の良い方法を試行錯誤しながら業務に取り組んでいきたい。
- ・災害はいろいろな原因が重なり、将棋倒しになって起こるという視点は非常に勉強になった。禁止手10項目が、「何故やってはいけないのか」という視点で具体的に示されている部分は非常に説得力があった。
- ・「安全」は与えてはくれるが、「絶対安全」「本質安全」にしていくために、正しい技術や技能を身につけて”自ら守る安全”へ成長させていく必要があるという点や、服装などの風紀面や設備の日常点検など、日常のルール順守の上に成り立っているものだと学んだ。これまで認識していた「安全」の捉え方では不足している点が多々あることを学んだ。
- ・安全とは何か、災害・事故はなぜ起こるのか、安全に作業するポイント、災害・事故の発生防止に向けた取り組みなど分かり易く説明していただき、とても参考になった。
- ・安全に作業するポイント(10項目)では、各項目でやってはいけないことが具体的に説明されていることが自身の業務でイメージしやすく分かり易いと感じた。労働安全衛生法の説明では、会社としての労働災害の内容もあり、自身の安全と会社の取り組みの両面を考えることができた。
- ・今回指導する側として参加させていただいた。現在職場で5Sに力を入れている中で、特に躰の部分が必要なポイントとなってくると思っていた。その中で「割れ窓理論」はまさしく当てはまると思う。肝に銘じて活動していきたいと思った。
- ・言われてみれば当たり前のことではあるが、日常作業において意識して行動できていないことも多く、改めて認識できたことは大変良かった。管理職における責任についても大変参考になった。
- ・業務を行う上で最も重要な安全について、考え方や理由が簡潔にまとまっており、作業員に理論的に理解してもらえる内容となっていた。安全教育を行う上で参考にしたい。
- ・安全は何よりも優先される事柄であり、どんなに注意しても身の回りにあるたくさんの危険要素を完全に排除できないということを改めて実感した。だからこそ平日頃から安全に関する教育が重要であることを再認識し、怠ることなく安全確保に努めていきたい。